



故工學博士 葛 藏 治 君

## 故本會評議員工學博士葛藏治君小傳

故正四位勳二等工學博士葛藏治君ハ盛岡ノ人、明治二十八年帝國大學工科大學採鑛冶金學科ヲ卒業シ三十年製鐵所ヨリ命ヲ受ケテ歐米諸國ニ留學シテ製鐵術ノ研鑽ニ從ヒ三十三年歸朝後製鐵所製鋼作業創始ノ任ニ當リ苦心經營能ク其功ヲ舉ゲ同所今日ノ作業ノ基礎ヲ築ケリ、四十三年同所鋼材部長兼製鋼部長ニ任命セラレ爾來十數星霜專心作業ノ充實ト發展トニ努力セラレ又再ビ海外ニ赴キテ製鐵事業ヲ視察シ其粹ヲ拔キテ實際ニ適用セラル、所アリ製鐵所今日ノ盛觀ヲ致セルモノ實ニ此間ニ於ケル博士ノ勞ニ負フ所大ナリトス、大正十二年五月製鐵所技監兼監理部長ニ昇任セラレ愈廣ク其抱負經綸ヲ行フノ緒ニ就カレタル際不幸ニ二豎ノ冒ス所トナリ就薨數旬ニ滿タズシテ八月二十三日溘然トシテ長逝セラル享年五十四何ゾ凋帳ニ堪ヘンヤ

博士ハ夙ニ製鐵所ニ於ケル技術者ノ北斗ニシテ又本邦製鐵界ノ耆宿タリ其豐富ナル蘊蓄ヲ傾ケテ製鐵所外斯界ノ事業ノ勃興ニ貢獻セラレタル所枚舉ニ遑アラズ、晩年其精力ヲ注ガレタル工業品規格統一調査ノ如キ其一トシテ加フベキモノナリ

本會ニ對シテハ設立以來評議員トシテ直接間接援助セラレシ所多大ニシテ其勞永ク牢記スベシ

博士資性眞摯直情名利ニ恬淡ニ事ヲ處スルニ周到綿密加フルニ天稟ノ經營的才幹ト非凡ノ精勵トヲ以テス宜ナル哉其二十有五年ノ後半生ヲ捧ゲラレタル製鐵等ニ於ケル功績ノ燦トシテ光輝アルコトヤ

今ヤ我邦製鐵業ノ前途益多事ナラントスルニ際シ博士ノ如キ斯道ノ權威ヲ失フ事ハ實ニ斯界ノ損失ニシテ眞ニ痛惜哀悼ノ念ニ堪ヘザル所ナリ